第５学年　外国語活動学習指導案

日　時　平成３０年１０月３１日（水）

学習者　十和田市立北園小学校５年１組

男子２３名　女子１４名　計３７名

授業者　ＨＲＴ　佐々木　千賀子

ＡＬＴ　カルビン　テッサ

１　単元名　　We　Can!１　Unit5　She can run fast．He can jump high.　できること

２　単元の目標

・自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。

　　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

・自分や第三者について，できることやできないことなどを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。また，小文字を読むことに慣れ親しむ。　　　　　　　　　　（外国語への慣れ親しみ）

・言語や人，それぞれに違いがあることに気付く。　　　　　　　（言語や文化に対する気付き）

　【新学習指導要領】

・自分や第三者について，できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。また，文字には音があることに気付く。　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識及び技能）

・自分や第三者について，できることやできないことを，考えや気持ちも含めて伝え合う。

（思考力．判断力，表現力等）

・他者に配慮しながら，自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力，人間性等）

３　評価規準

【コ】自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合っている。

【慣】自分や第三者について，できることやできないことなどを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しんでいる。また，小文字を読むことに慣れ親しんでいる。

【気】言語や人，それぞれに違いがあることに気付いている。

４　単元について

　（１）教材について

　　　本単元は，自分や友達ができることやできないことについて伝える表現の仕方を知り，尋ねたり

答えたりする活動を通して，伝え合う喜びを感じながら，積極的にかかわろうとする態度を養うことをねらいとしている。

　　　本単元では，三人称に初めて出会う。これまでの外国語活動においては，一人称と二人称のみで

思いを伝え合ってきた児童が，やがて三人称を使って，自分の身近な家族や友達の話をしたくなる

５年－１

のは，ごく自然な流れである。しかし，中学校の英語教育で多くの生徒がつまずくとされる三人称

単数形の動詞変化をここで扱うことは，小学生には負荷が大きい。そこで，本単元ではcanととも

に扱うことで動詞変化を回避している。また，児童がcanを使ってできることを紹介し合ったり，

相手ができることを認め合ったりする活動を通して，学級が学習集団へと高まることが期待される。

　　　本単元では，「ＫＴＶ　ここ調リポーターになろう」と題して，一人一人がリポーターになって

　　紹介し合う場面を単元の最後に設定する。単元のゴールに向けて，友達のできることを尋ねたり答

　　えたり，友達のことを紹介する活動を取り入れて，最後には自分の考えを含めて発表できるよう単

　　元が構成されている。

　　　また本単元では，単語の初頭音に意識を向けさせ，文字の音への気付きも促す活動が導入されて

いる。簡単な単語を書いたり，情報を記録したり，発表前にまとめをしたりしながら，書写の指導

も始まる本単元は，今後の読む力を支え，書く活動の導入部分として重要な単元である。

　　＜本単元の言語材料＞

|  |
| --- |
| 【主な表現】Can you (sing well)? Yes, I can./No, I can’t.[I/You/He/She][can/can’t](sing well). |
| 【主な語彙】play[the recorder/the piano],ride a [bicycle/ unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well, can, can’t, he, she, Mr., Ms., net, omelet （既出）スポーツ，動作，日課，not |

（２）児童について

◇実態調査問題と実態調査結果（調査日：平成３０年７月４日，調査対象者５年１組３７名）

①外国語活動の授業や英語について思っていること，していることを教えてください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | そう思う | ややそう思う | あまり思わない | そう思わない |
| ア | 外国語活動の授業は好きだ。 | 28人 | 76％ | 7人 | 19% | 2人 | ５％ | 0人 | 0％ |
| イ | 外国語活動の授業では，自分から進んで友達や先生と英語でコミュニケーションをとろうとしている。 | 12人 | 32% | 18人 | 49% | 6人 | 16% | 1人 | 3% |
| ウ | 分からないことがあっても，ジェスチャーを使うなどの工夫をしたり，他の人に聞いたりして理解しようとしている。 | 19人 | 51% | 15人 | 41% | 1人 | 3% | 2人 | 5% |
| エ | もっと英語が使えるようになりたい。 | 32人 | 86% | 4人 | 11% | 1人 | 3% | 0人 | 0% |
| オ | 外国語活動の授業は分かりやすい。 | 21人 | 57% | 10人 | 27% | 4人 | 11% | 2人 | 5% |

②外国語活動の授業をして，できるようになったことや変化があれば書いてください。

５年－２

|  |  |
| --- | --- |
| 英語を（少しずつ）話せるようになってきた。 | 21人 |
| 英語（いろいろな単語や数字の言い方など）を覚えた。 | 13人 |
| 発音がよくなった。 | 4人 |
| 英語を聞き取れるようになってきた。 | 4人 |
| 英語（アルファベット）を少しずつ書けるようになってきた。 | 7人 |
| 英語を覚えたいと思うようになってきた。 | 1人 |
| 英語が得意になってきた。 | 1人 |

③外国語活動の好きな所や楽しい所を教えてください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| チャンツや歌 | 22人 | 英語を話すこと | 24人 |
| 英語を聞くこと | 21人 | 新しい英語の言葉を覚えること | 29人 |
| 英語の発音を覚えること | 21人 | ゲーム | 15人 |
| クイズ | 2人 |  |  |

◇考察

以上の結果から，児童は外国語活動を楽しみ，学習に意欲をもって臨んでいることが伺える。普段の様子からもＡＬＴが教室に来るのを楽しみにしていたり，次の授業は外国語活動だと知ると喜んでいたりしていることからも，外国語活動に対する抵抗感は低いように思える。４月から外国語活動の授業が始まり，少しずつ英語の語彙が増えたり，言えるフレーズが増えたり，アルファベットを書けるようになったりしていることが楽しさにも繋がっていることが見てとれる。自分から進んでコミュニケーションをとろうとする場面を増やすためにも，インプットの時間を十分に確保するとともに，会話場面を増やし，「英語で話せた，伝えられた」という達成感をもたせていきたい。

（３）指導について

　　　　みんなで「ＫＴＶ　ここ調リポーターになろう」という単元のゴールに向かって，児童が積極的にコミュニケーション活動をできるよう，以下のことに留意していく。

　　　　導入時のSmall Talkで，ＨＲＴ（ＡＬＴ）がリポーターとして登場し，ＡＬＴ（ＨＲＴ）

　　　を紹介することで，ゴールの姿をイメージしやすくし，活動に見通しをもたせていく。

　　　　言語への慣れ親しみの場面では，できることを尋ねたり答えたりする“Can you～？”や，

自分の思いを伝える“I can～．”の表現に親しみながら，言語にたくさん触れることができる

よう，チャンツやゲームを取り入れていく。

　　　 “He/She can～．”を使って友達を紹介する場を意図的に設定することで，三人称でも無理な

く表現できるようにしていく。

　授業の最初に，毎回Jingleを取り入れる。動物や動詞の初頭音を聞いて，単語の最初の文字

を書かせ，文字と音をつなげていけるようにしていく。

５年－３

５　仮説との関わり

仮説１

　「聞く」「話す」必然性のある場面を設定し，「誰に」「何のため」伝えるかを明確にすれば，積極的にコミュニケーションを図ろうとするであろう。

仮説２

　児童自らが選択した表現を使って，友達や先生，ＡＬＴに伝える場を工夫すれば，英語に慣れ親しむであろう。

（１）仮説に関わる手立て

　　①仮説１に関して

　　　　「ＫＴＶ　ここ調リポーターになろう」と題して，一人一人がリポーターになって紹介し合

う場面を単元の最後に設定する。

・「聞く」「話す」必然性のある場面を設定：友達を紹介する。

・「誰に」「何のため」伝えるか：友達や先生に友達のことを紹介しながら，お互いをよりよく

知るために伝え合う。

②仮説２に関して

　　　できることを尋ねる“Can you～？”や自分の思いを伝える“I can～．”の表現に慣れ親し

みながら，言語にたくさん触れることができる活動を行う。

・伝える場を工夫：児童同士のペア活動やグループ活動，児童対ＡＬＴ，児童対ＨＲＴという

活動形態でやり取りを繰り返す言語活動の場を多く取り入れる。

リポーターになって発表する場面を録画し，動画を見合ったり，他の学年

に見せたりできるようにする。

　（２）単元全体に関わる手立て

　　　　・Small Talkで毎回紹介する人（動物，キャラクター）を変え，興味をもって聞けるようにするとともに，さまざまな表現の仕方があることに気付かせ，発表会で自分が言う内容の参考にできるようにする。

　　　　・Animal（Verb） Jingleを毎時間設定し，発音と文字と一致できるようにさせていく。

６　指導計画（全６時間）

５年－４

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○目標 　●【　】主な活動　　＜　＞言語活動 | 主な評価規準《評価方法》 |
| １ | ○動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知る。　学習の見通しをもつ。【Jingle】Animals p.77●Small Talk　“I am KTVここ調リポーター.”・指導者のやり取りを見て，自分たちもここ調レポーターに挑戦することを知る。“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Part１～動作を表す言葉を覚えよう。【Let’s Watch and Think1】p.36・映像資料の映像なしに音声のみで聞いて，その人物が誰かを推測する。●Practice　　・動詞の発音練習をする。【Let’s Play1】p.34・指導者の話を聞いて，誌面のどの動物かを推測して答える。【Let’s Chant】Can you sing well? p.35【Let’s Listen1＆2】p.36・音声を聞いてどの動物かを考えて，イラストの下に番号を記入する。＜Can you jump? Yes, I can. No, I can’t. Can you sing? Can you swim? Can you run fast? Can you jump high? Can you dance well? Can you sing well? > | 【気】様々な動作を表す言い方を知り，日本語と英語の音の違いに気付いている。【気】「できる」「できない」の表現の仕方に気付いている。《行動観察・振り返りカード》 |
| ２ | ○動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ，できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。●Jingle　Animals （Verbs）●Small Talk　“I am KTVここ調リポーター.”・指導者が子供にインタビューした後に，みんなに紹介することで“She”や”He”の三人称を使っていることにそれとなく気付かせる【Let’s Chant】Can you sing well? p.35“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Part２～友達にできることをインタビューしてみよう。【Let’s Play2】p.37・ポインティングゲーム【Activity1&2】p.37・友達にできることをインタビューする。＜Can you jump? Yes, I can. No, I can’t. Can you sing? Can you swim? Can you run fast? Can you jump high? Can you dance well? Can you sing well? play [the recorder/the piano],ride a[bicycle/unicycle], swim, skate, ski, cook, play [kendama, volleyball, baseball etc.], do [kendo, judo etc.]＞ | 【慣】「できる」「できない」の表現を使って，友達にインタビューしたり答えたりしている。《行動観察・　　　　振り返りカード》 |
| ３ | ○できるかどうかを尋ねたり答えたりするとともに，短い話を聞いて具体的な情報を聞き取る。●Jingle　Animals （Verbs）●Small Talk　“I am KTVここ調リポーター.”前時と同じ内容のもので行い，イメージをよりはっきりさせる。【Let’s Chant】Can you sing well? p.35５年－５“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Part３～友達にできることをもっとインタビューしてみよう。【Let’s Watch and Think２】前半のみp.38・映像を視聴して，誌面に○や△を書いたり，指導者の質問に答えたりする。・友達にできることをインタビューする。＜What can you do? I can ～．＞ | 【慣】「できる」「できない」の表現を使って，友達にインタビューしたり答えたりしている。《行動観察・　　　　振り返りカード》 |
| **４****本****時** | **○第三者の紹介の仕方を知り，クイズを作ったりクイズに答えたりしながら，できる，できないの言い方に慣れ親しむ。****●Jingle　Animals （Verbs）****●Small Talk　“I am KTVここ調リポーター.”****・これまでの流れは変えず，紹介する人を変えて内容に変化をもたせる。****“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Part４～****友達のことを紹介する表現の仕方を知ろう。****【Let’s Watch and Think２】後半p.38****・Let’s Watch and Think２の後半部分を視聴し，第三者の紹介の仕方を知る。****【Activity3】p.39****・紹介する人物や動物，キャラクターを決め，ワークシートに書く。****・Who is she? Who is he？クイズをする。****＜She can～． He can～．She can’t～．He can’t～．＞** | **【慣】第三者についての紹****介の仕方を知り，できるこ****とやできないことを言った****り尋ねたりしている。****≪行動観察・ワークシート・****振り返りカード≫** |
| **５** | ○友達を紹介する表現に慣れ親しむ。●Jingle　Animals （Verbs）　●Small Talk　“I am KTVここ調リポーター.”・１時間目の内容と同じものをやり，次の発表会へのイメージをもたせる。“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Part５～友達のことを紹介する練習をしよう。・これまでに出てきた表現を復習。【Let’s Listen3】 p.40・音声を聞いて，どの人物かを考え，人物の写真の下に番号を記入する。【Activtiy5】p.40・インタビュー結果をもとに，友達ができることやできないことをワークシートにまとめ，発表練習をする。５年－６・発表練習。＜She can～． He can～．She can’t～．He can’t～．I like～．＞ | 【慣】友達についてできることやできないことをまとめ，発表に向けて練習している。≪行動観察・ワークシート・　振り返りカード≫ |
| ６ | ○他者に配慮しながら，第三者についてできることやできないことを，自分の考えも含めて紹介しようとする。“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Final～リポーターになりきって友達のことを紹介しよう。●Activity・練習・小グループで発表会（代表児童を選ぶ。）・代表児童による発表会＜She can～． He can～．She can’t～．He can’t～．I like～.＞ | 【コ】他者に配慮しながら，友達についてできることやできないことを，自分の考えも含めて紹介している。≪行動観察・　　　　振り返りカード≫ |

７　本時の指導

　（１）本時の目標

　　　　　「ＫＴＶ　ここ調リポーター」になるために，第三者の紹介の仕方を知り，クイズを作ったりクイズに答えたりしながら，できる，できないの言い方に慣れ親しむ。

　（２）仮説との関わり

　　　①「聞く」「話す」必然性のある場面設定

　　　　・児童が主体的に聞こうとするよう誰のことを言っているのか推測させながら“Who is she? Who is he?”クイズを行う。

　　　②伝える場の工夫

　　　　・これまでに出てきた人や動物，キャラクターを使ってクイズをする。最初はＡＬＴから出題させ，慣れてきたら，児童にも出題させ，繰り返し話したり聞いたりできるようにする。

（３）展開（３／４）

５年－７

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 児童の活動 | 指導者の活動 | ○指導上の留意点【　】評価 |
| ＨＲＴ | ＡＬＴ |
| 導入10分 | １ Greetings“Let’s start English class.”“Hello,～and Ms.Sasaki.”“I’m happy.”“It’s sunny.”“It’s Wednesday.”“It’s October 31st.”“It’s ～．２ Warm up【Jingle】Animals Verb○ジングルを聞き，単語の最初のアルファベットを書く。【Small Talk】 | ○English class rulesの確認をする。・Eye contact・Clear voice・Smile and try・Reaction・GestureHRT:Hello. I am KTV ここ調reporter.ALT(S):Hello.HRT:Do you know ○○?ALT(S): Yes,I do./No,I don’t.HRT:OK.I will introduce her/him. This is○○． She/He is～． She/He can～.　She/He can～．She/He is great. Can you～．ALT(S):Yes,I can./No,I can’t.HRT:I can/can’t～．She/He likes～.I like ～．Do you like～? ALT(S):Yes.I do./No, I don’t.HRT:She/He can～.She/He is～. Thank you. | “Hello.”“How are you?”“How is the weather today?”“What day is it today?”“What’s the date today?”“What time is it?”○動物や動作を表す単語の最初の文字のジングルを言う。 |  |
| 展開30分 | ３ Today’s goal“Let’s challenge!”～ここ調リポーターへの道　Part４～友達のことを紹介する表現の仕方を知ろう。４ Review○前時までの表現を確認する。５ Let’s Watch and Think２後半p.38○２人の会話を聞いていた人が，その情報をまとめながらShe/Heを使って紹介するのを視聴し，分かったことを誌面に書く。６ Activity・紹介する人物や動物を決め，ワークシートに書く。・Who is she? Who is he?クイズをする。５年－９ | ５年－８○前時までに学習した表現を提示する。○書いたことをやり取りしながら確認する。○これまでに出てきた人物や動物，出てきたキャラクターを準備しておき，選ばせる。ALT/S1:She/He can～. She/He can～．She/He can’t～.Who is she/he?S2:I know. She/He is～.ALT/S1:That’s right./That’s wrong.（分からなかったら）S3:Hint ,please.ALT/S1:OK.No.1 hint～. S4:I know. She is～.ALT/S1:That’s right. | ○児童が聞き取れなかった部分をもう一度ゆっくり言い，確認できるようにする。“John is from～.““He can～.”“He can’t～.”“Christina is from～.”“She can～.“She can’t～.”○発音がわからない児童に教える。 | ○前時まで学習した”Can you～?”と”I can～.”とSmall Talkにでてきている“She/He can～.”の違いに気付かせる。○男女（雄雌）がはっきりと分かる人物や動物，キャラクターを扱うようにする。○選んだキャラクターを使ってクイズをすることを知らせておく。○ワークシートに予想を書かせてから発表させる。〔仮説１〕○ALT対児童から児童対児童でクイズを出し合えるようにする。〔仮説２〕【慣】第三者についての紹介の仕方を知り，できることやできないこと言ったり尋ねたりしている。≪行動観察・ワークシート・振り返りカード≫ |
| まとめ5分 | ７ Summing up○今日の活動の振り返りをカードに記入する。“Thank you～，and Ms.Sasaki.”“See you.” | “That’s all for today.”“See you.” | “See you.” | ○わかったことやできるようになったことを発表させ，達成感や満足感を味わわせる。 |

５年－１０